



歴史とあゆみ

釧路濃縮100%！釧路市立博物館

● 釧路市の歴史（寛政～昭和）

寛 政（1789-1801）	
11年	＜旧釧路市＞ 幕府の直接経営となり釧路川口にクスリ会所・旅宿所・酒造所が設けられる。 ＜旧音別町＞ 幕府は、尺別に通行屋(旅宿所)を設ける。

文 化（1804-1817）	
元年	＜旧阿寒町＞ 阿寒アイヌの居住について文献に出る。

安 政（1854-1860）	
2年	＜旧釧路市＞ 前の年箱館(函館)が開港場となり、この年から幕府は再びこの地を直接経営する。 本州から漁場へ働きにくる人はますます多くなり、アイヌ人口は減り始める。

明 治（1868-1912）	
2年	＜旧釧路市＞ 蝦夷地は北海道、クスリは釧路と改称され、釧路国釧路郡の名が定まる。 ＜旧阿寒町＞ 釧路国阿寒郡の名称確定、阿寒郡は兵部省の直轄下に入る。 ＜旧音別町＞ 音別は釧路国白糠郡に属す。
17年	＜旧釧路市＞ 鳥取県旧士族が移住し、鳥取村が設けられる。
20年	＜旧釧路市＞ 当時の春鳥の石炭を掘り始める。
22年	＜旧阿寒町＞ 内地からの移住始まる。
30年	＜旧阿寒町＞ 阿寒湖で「マリモ」発見。
31年	＜旧音別町＞ 直別原野から入植者の入地がはじまる。
33年	＜旧釧路市＞ 北海道一級町村制が施行され釧路町(人口10,309人)が誕生する。 道内初の製紙工場(前田製紙)ができる。 初代幣舞橋が国費でかけられる。
34年	＜旧釧路市＞ 釧路－白糠間に鉄道が開通する。(明治40年には旭川経由で函館まで開通)
36年	＜旧音別町＞ 官設鉄道釧路線が音別まで開通。音別駅ができ、営業を開始する。
39年	＜旧阿寒町＞ 前田正名阿寒湖畔に入り開発に着手。
42年	＜旧釧路市＞ 釧路に近代港湾を建設する予算が帝国議会を通過し、港湾修築工事が始まる。(釧路は北海道東部の鉄道・汽船輸送の結節点となる)

大 正（1912-1926）	
4年	＜旧釧路市＞ マグロの水揚げが盛んで、東京へ出荷される。
7年	＜旧音別町＞ 尺別炭砦が開坑。
8年	＜旧音別町＞ 二級町村制が敷かれ、尺別村役場となる。
9年	＜旧釧路市＞ 北海道区制が施行され、釧路区(人口39,392人)が誕生する。この時釧路村を分村する。 太平洋炭礦が開業し、富士製紙は鳥取の新工場で操業を始める。

9年	＜旧釧路市＞ 東北・北海道に長雨があり、釧路川・阿寒川が氾濫して大洪水となる。(釧路川に合流していた阿寒川は分離して独立した河川となる) ＜旧阿寒町＞ 北海炭砦株式会社(雄別炭砦株式会社)創業。
10年	＜旧阿寒町＞ マリモが天然記念物に指定。
11年	＜旧釧路市＞ 市制が施行され、釧路市が誕生する。(人口42,673人) ＜旧音別町＞ 尺別村が音別村に改称。
12年	＜旧阿寒町＞ 2級町村制施行。
14年	＜旧釧路市＞ 四代目幣舞橋を永久橋とする工事が始まる。(完成は昭和3年)

昭 和（1926-1989）	
9年	＜旧阿寒町＞ 阿寒国立公園指定。
18年	＜旧釧路市＞ 鳥取村に町制が施行され、鳥取町が誕生する。 ＜旧音別町＞ 1・2級町村制が廃止され、北海道指定村となる。
19年	＜旧音別町＞ 音別炭砦・尺別炭砦が休坑。
21年	＜旧阿寒町＞ 雄別炭砦三菱から分離。
	＜旧音別町＞ 尺別炭砦が復活。
24年	＜旧釧路市＞ 釧路市と鳥取町及び白糠町の一部が合併。(人口85,180人) 北海道学芸大学釧路分校(現北海道教育大釧路校)開学。
27年	＜共 通＞ タンチョウが国の特別天然記念物となる。 ＜旧阿寒町＞ 阿寒湖のマリモが国の特別天然記念物となる。
32年	＜旧阿寒町＞ 町制施行。阿寒町となる。
34年	＜旧釧路市＞ 本州製紙釧路工場が操業開始。 ＜旧音別町＞ 町制施行。音別町となる。
35年	＜旧釧路市＞ 釧路空港が完成、釧路－帯広－札幌線開設。
39年	＜旧釧路市＞ 釧路女子短期大学(現釧路短期大学)開学。
40年	＜旧釧路市＞ 国立釧路高等工業専門学校開学。
44年	＜旧釧路市＞ 魚の水揚量、全国一を記録する。
45年	＜旧阿寒町＞ 雄別炭砦閉山。 ＜旧音別町＞ 尺別炭砦閉山。
50年	＜旧釧路市＞ 国勢調査で市の人口が20万人を超える。
51年	＜旧釧路市＞ 五代目幣舞橋が完成し、翌年「道東の四季像」除幕。
52年	＜旧阿寒町＞ タンチョウ観察センターオープン。
53年	＜旧阿寒町＞ マリモ展示観察センターオープン。
59年	＜旧釧路市＞ たんちょう国体(冬期スケート競技会)開催。
62年	＜旧釧路市＞ 釧路湿原が28番目の国立公園となる。
63年	＜共 通＞ 釧路公立大学開学。



● 釧路市の歴史（平成～）

平 成（1989-2019）		
元年	＜旧釧路市＞	釧路フィッシャーメンズワーフがオープン。
2年	＜旧釧路市＞	スイスの第4回ラムサール条約締約国会議で、第5回会議(平成5年)を釧路市開催と決定。
4年	＜旧音別町＞	音別町ふれあい図書館新築落成。
5年	＜共 通＞ ＜旧釧路市＞	釧路沖地震。 第5回ラムサール条約締約国会議開催。
6年	＜共 通＞ ＜旧釧路市＞	北海道東方沖地震。 国際会議観光都市認定。
7年	＜旧釧路市＞	地方拠点都市地域指定。 シマフクロウの人工増殖に世界で初めて成功。
8年	＜旧阿寒町＞	マリモ展示観察センター(トーラサンペ)リニューアル。国際ツルセンター(グルス)新築落成。
9年	＜旧釧路市＞	第52回くしろ湿原国体(冬季スケート大会)開催。 振子式特急「スーパーおおぞら」が釧路・札幌間で運行を開始。
13年	＜旧釧路市＞	釧路川名称復活。(「旧釧路川」から「釧路川」へ)
14年	＜旧釧路市＞ ＜共 通＞	釧路港西港第4埠頭一部供用開始。(道東初の－14m岸壁) 釧路工業技術センター開設。 十勝沖地震発生。
16年	＜旧釧路市＞	市民活動センター「わっと」オープン。
17年	＜共 通＞ ☆釧路市、阿寒町、音別町が合併し、新生「釧路市」が誕生する。	北海道横断自動車道(本別～釧路間)の工事着工。 釧路市こども遊学館オープン。
18年	第1回日中韓観光大臣会合が阿寒湖温泉で開催される。	
19年	西消防署音別支署・音別町コミュニティセンターがオープン。	



【市 章】

2005年(平成17年)釧路市、阿寒町、音別町協議

外側の星は北極星を、内側の円はクシロを意味する腕輪を表し、北海道を象徴する北極星に囲まれ、釧路市が栄えることを祈って作られました。

20年	千代ノ浦マリンパークがオープン。 総合体育館 湿原の風アリーナ釧路がオープン。
21年	阿寒湖まりむ館がオープン。 ドクターヘリの運航が開始。 第65回国民体育大会冬季大会(スケート競技会・アイスホッケー競技会)開催。
22年	小型惑星探査機はやぶさのカプセルが展示される。 釧路市事業仕分けを実施。
23年	釧路港が国際バルク戦略港湾に選定される。 釧路市動物園で飼育されていた2羽のタンチョウが、台北市動物園に無償貸与される。 東北地方太平洋沖地震発生。
24年	阿寒湖アイヌシアター「イコロ」がオープン。 台湾の復興航空による国際定期便が就航。
25年	エア・ドゥ釧路－羽田線を開設。 市民の寄付により釧路市動物園に4年ぶりにキリンを展示。
26年	釧路市連合町内会と釧路市との連携基本協定を締結。 武修館高校、釧路勢35年ぶりの甲子園出場。 音別町行政センター新庁舎落成。
27年	釧路市役所防災庁舎落成。
28年	道東自動車道 白糠IC～阿寒IC間開通。
29年	「阿寒国立公園」から「阿寒摩周国立公園」に名称が変更される。
30年	Peach釧路－大阪（関西）線を開設。 国際バルク戦略港湾の施設整備が完了。
31年	国際バルク戦略港湾釧路港国際物流ターミナルの運用が開始される。

令 和（2019- ）	
元年	台北市立動物園に天然マリモを貸与
2年	Peach釧路－東京（成田）線を開設。
4年	ルート38音別館おんぼーとがオープン。
6年	道東自動車道 阿寒IC～釧路西IC間開通。